⑸2　炭酸水素ナトリウム
ア　製造用原体
(ｱ)　成分規格
含量　本品は、デシケーター（シリカゲル）で４時間乾燥した後、定量するとき、炭酸水素ナトリウム（$NaHCO_3$）99.0%以上を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、白色の結晶又は結晶性の粉末で、臭いはない。
②　本品は、水にやや溶けやすく、エタノールにほとんど溶けない。
③　本品は、湿った空気中で徐々に分解する。
確認試験　本品の水溶液（１→30）は、ナトリウム塩及び炭酸水素塩の定性反応を呈する。
純度試験
①　溶状　本品1.0g（0.95～1.04g）に水20mLを加えて溶かすとき、その溶液は、無色で、澄明でなければならない。
②　塩化物　本品0.40g（0.395～0.404g）を量り、希硝酸４mLを加え、沸騰するまで加熱し、放冷した後、希硝酸６mL及び水を加えて50mLとし、これを試料溶液とする。塩化物試験法により0.01mol/L塩酸0.4mLを用いて比較液を調製して塩化物の試験を行うとき、試料溶液の呈する混濁は、比較液の呈する混濁より濃くてはならない（0.040%以下）。
③　炭酸塩　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、新たに煮沸し冷却した水20mLを加え、15℃以下で極めて穏かに揺り動かして溶かし、0.1mol/L塩酸2.0mL及びフェノールフタレイン試液２滴を加えるとき、溶液は、30秒以内に赤色を呈してはならない。
④　アンモニウム塩　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、加熱するとき、発生するガスは、潤した赤色リトマス紙を青変してはならない。
⑤　重金属　本品4.0g（3.95～4.04g）を量り、水５mL及び塩酸4.5mLを加えて溶かし、水浴上で蒸発乾固し、残留物に希酢酸２mL、水35mL及びアンモニア試液１滴を加えて溶かし、更に水を加えて50mLとし、これを試料溶液とする。塩酸4.5mLを蒸発乾固し、希酢酸２mL、鉛標準液4.0mL及び水を加えて50mLとし、これを比較液として重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（10μg/g以下）。
⑥　ヒ素　本品0.70g（0.695～0.704g）を量り、水３mL及び塩酸２mLを加えて溶かし、これを試料溶液として装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（2.8μg/g以下）。
定量法　本品をデシケーター（シリカゲル）で４時間乾燥した後、その約2.0gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水25mLを加えて溶かし、0.5mol/L硫酸で滴定し、溶液の青色が黄緑色に変わるとき、注意して煮沸し、放冷した後、帯緑黄色を呈するまで滴定する（指示薬　ブロムクレゾールグリーン試液２滴）。同様の方法で空試験を行い補正する。
0.5mol/L硫酸１mL＝84.01mg$NaHCO_3$
(ｲ)　保存の方法の基準
密閉容器に保存すること。
イ　製剤
(ｱ)　成分規格
炭酸水素ナトリウム製造用原体の成分規格を準用する。
(ｲ)　保存の方法の基準
炭酸水素ナトリウム製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

⑸3　炭酸マグネシウム
ア　製造用原体
(ｱ)　成分規格
含量　本品は、含水塩基性炭酸マグネシウム又は含水正炭酸マグネシウムであり、定量するとき、酸化マグネシウム（MgO）40.0～43.5%を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、白色の粉末で、臭いはない。
②　本品は、水又はエタノールにほとんど溶けない。
③　本品は、希塩酸に泡立って溶ける。
④　本品の飽和水溶液は、アルカリ性である。
確認試験
①　本品１g（0.5～1.4g）に希塩酸10mLを加えて溶かし、煮沸し、放冷した後、１mol/L水酸化ナトリウム試液を加えて中和した溶液（必要ならば、ろ過する。）は、マグネシウム塩の定性反応を呈する。
②　本品は、炭酸塩の定性反応①を呈する。
純度試験
①　溶状　本品1.0g（0.95～1.04g）を塩酸（２→３）10mLに溶かし、これに水10mLを加えるとき、その溶液は、ほとんど澄明でなければならない。
②　重金属　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、水４mLで潤し、希塩酸10mLを加えて溶かし、水浴上で蒸発乾固し、残留物に水35mL、希酢酸２mL及びアンモニア試液１滴を加えて溶かし、更に水を加えて50mLとし、これを試料溶液とする。希塩酸10mLを水浴上で蒸発乾固し、希酢酸２mL、鉛標準液3.0mL及び水を加えて50mLとし、これを比較液として重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（30μg/g以下）。
③　ヒ素　本品0.40g（0.395～0.404g）を量り、水1.5mLで潤し、塩酸（１→４）3.5mLを加えて溶かし、これを試料溶液として装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（５μg/g以下）。
乾燥減量　3.0%以下（１g，105℃，２時間）
定量法　本品約１gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、0.5mol/L硫酸30mLを加えて溶かし、過剰の硫酸を１mol/L水酸化ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　ブロムフェノールブルー試液２～３滴）。同様の方法で空試験を行う。
0.5mol/L硫酸１mL＝20.15mgMgO
(ｲ)　保存の方法の基準
密閉容器に保存すること。
イ　製剤
(ｱ)　成分規格
炭酸マグネシウム製造用原体の成分規格を準用する。
(ｲ)　保存の方法の基準
炭酸マグネシウム製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

⑸4　炭酸マンガン
ア　製造用原体
(ｱ)　成分規格
含量　本品は、塩基性炭酸マンガンであり、定量するとき、マンガン（Mn）42.8～44.7%を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、淡褐色の粉末で、臭いはない。
②　本品は、塩酸に溶け、水にほとんど溶けない。
確認試験
①　本品1.0g（0.95～1.04g）に少量の希塩酸を加えて溶かし、１mol/L水酸化ナトリウム試液を加えて中性とした溶液は、マンガン塩の定性反応を呈する。
②　本品は、炭酸塩の定性反応①を呈する。